

IMAGICA GROUP

新たな挑戦！

初のオリジナル映画製作プロジェクト始動

是枝裕和氏・市山尚三氏・坂野ゆか氏が審査員として参画した

第 1 弾作品をカンヌにて発表決定！

次世代をリードするクリエイター育成・発掘の機会へ

株式会社 IMAGICA GROUP（本社：東京都港区、代表取締役社長：長瀬 俊二郎）は、2025 年に創業 90 周年を迎え、新たな挑戦として「オリジナル映画製作プロジェクト」を立ち上げました。自社初のオリジナル映画製作となる本プロジェクトの概要と、選考された第 1 弾作品の内容を、第 78 回カンヌ国際映画祭会期中に世界発表いたします。

「IMAGICA GROUP オリジナル映画製作プロジェクト」概要

グループ会社内から国際映画祭への出品および受賞を視野に入れた映画企画を募集し、毎年 1 本作品を選定して製作。これを 5 年間に渡り継続することで才能あるクリエイターの発掘・育成を図ると共に IMAGICA GROUP としての創造力と表現力を世界に向けて発信してまいります。

応募条件

応募者が IMAGICA GROUP のグループ会社に所属するプロデューサーであること。（外部のプロデューサーや監督などのクリエイターは、IMAGICA GROUP のグループ会社に所属するプロデューサーと組むことで応募可能）

第 1 弾作品は、当社グループ会社内にて募集した 88 企画の中から、厳正なる最終選考を経て決定。その後のプロデュース及び制作は、株式会社ロボット（ROBOT）、株式会社ピクス（P.I.C.S.）、株式会社オー・エル・エム（OLM）のいずれか 1 社が担当する予定です。審査員には、繊細な人間描写と深い社会的視点で世界を魅了し、『万引き家族』でカンヌ国際映画祭の最高賞パルムドールを受賞するなど、カンヌと縁が深い映画監督の是枝裕和氏に加えて、東京国際映画祭プログラミング・ディレクターの市山尚三氏、公益財団法人川喜多記念映画文化財団 常務理事の坂野ゆか氏というこれまで数々の日本映画を世界に送り出してきた 3 名が、本プロジェクトの第 1 弾企画の審査員として参加しています。



* 左から、株式会社 IMAGICA GROUP 代表取締役社長 長瀬俊二郎、審査員の市山尚三氏、是枝裕和氏、坂野ゆか氏

審査の流れ

- ・一次審査 : 2024 年 9 月締切で、当社グループ内より企画を募集。その後グループ内審査にて 88 企画の応募作品から 11 企画を選定。
- ・二次審査（最終）: 2025 年 3 月より審査開始し、2025 年 4 月末に第 1 弾作品が決定。
- ・審査結果の発表 : 2025 年 5 月、カンヌ国際映画祭期間中に作品を発表。

なお、第 1 弾作品の製作費は、株式会社 IMAGICA GROUP が上限 7000 万円として出資し、製作委員会を組成した上で、最終決定します。

カンヌ映画祭での記者発表会では、**5 月 14 日（水）**現地時間にて、IMAGICA GROUP 代表取締役社長 長瀬俊二郎（ながせ・しゅんじろう）より、**第 1 弾作品のプロデューサー、監督、作品概要**を発表。そして、審査員を務めた**是枝裕和氏から作品へのコメント、審査員として参画した理由**などが、カンヌの地で発表となります。

株式会社 IMAGICA GROUP 代表取締役社長 社長執行役員 長瀬 俊二郎

上智大学経済学部卒業後、IT コンサルティング会社勤務等を経て、2012 年に株式会社イマジカ・ロボットホールディングス（現：株式会社 IMAGICA GROUP）に入社。15 年に MIT Sloan School（マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院）への留学を経て、17 年から米国拠点グループ会社の経営に参画。22 年 4 月に株式会社ロボット代表取締役社長に就任。24 年 4 月より株式会社 IMAGICA GROUP 代表取締役社長に就任（現職）。



コメント

「IMAGICA GROUP は今年、創業 90 周年を迎えました。この節目に立ち上げた本プロジェクトは、次世代の映像クリエイターに活躍の場を提供し、日本映画の新たな可能性を切り開くことを目的としています。当社グループ内のプロデューサーをはじめ、国内外の若手監督や映像作家が自由に挑戦し、表現できる環境を整えることは、私たちの責任であり、未来への投資でもあります。欧州をはじめとする国際映画祭では、社会課題を描いた作品や独自の芸術表現が高く評価されていますが、日本においては、そうした作品をつくるには依然として高いハードルがあります。だからこそ私たちは、映像文化の多様性を広げ、才能あるクリエイターが世界に挑戦できる土壌を築き、日本映画の国際的な発信力を高めていきたいと考えています。」

映画監督 是枝裕和氏

1962 年 6 月 6 日、東京生まれ。87 年に早稲田大学第一文学部文芸学科卒業後、テレビマンユニオンに参加。

主にドキュメンタリー番組を演出、14 年に独立し、制作者集団「分福」を立ち上げる。

主なテレビ作品に、「しかし…」（1991 年）などがある。1995 年、『幻の光』で映画監督デビュー。『誰も知らない』（2004 年）『歩いて 歩いて』（08）『そして父になる』（13）『海街 diary』（15）『三度目の殺人』（2017 年）などで、国内外の主要な映画賞を受賞。2018 年、『万引き家族』が第 71 回カンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞、第 91 回アカデミー賞外国語映画賞にノミネートされた。2019 年、カトリーヌ・ドヌーヴを主演に迎え、全編フランスで撮影した日仏合作映画『真実（原題：La Vérité）』が第 76 回ヴェネチア国際映画祭コンペティション部門のオープニング作品として正式出品。22 年、韓国映画『ベビー・ブローカー』（英題：Broker）がカンヌ国際映画祭最優秀男優賞受賞（ソン・ガンホ）、エキシユニカル審査員賞を W 受賞。最新作の『怪物』（2023 年）は、第 76 回カンヌ国際映画祭にて脚本賞、キア・パルム賞を受賞した。最新作は Netflix シリーズ『阿修羅のごとく』。



コメント

「映画界の次世代の才能を発掘し、世界で活躍できる人材を育てたいという IMAGICA GROUP の取り組みに共感し、自分にできることがあれば、このプロジェクトに参加いたしました。

昨年、今年と、カンヌ国際映画祭に多くの若い映画人が招待されていることからわかるように、日本の新たな才能への注目は年々高まっています。この追い風に乗って、次なる才能が世界へと羽ばたいていくお手伝いが出来ればと思います。」

東京国際映画祭プログラミング・ディレクター 市山尚三氏

1963 年生まれ。松竹、オフィス北野をベースに主に海外の映画作家の作品をプロデュースする。主な作品にホウ・シャオシェン監督の『フラワーズ・オブ・シャンハイ』(1998 年)、カンヌ映画祭審査員賞を受賞したサミラ・マフマルバフ監督の『ブラックボード』(2000 年)、カンヌ映画祭脚本賞を受賞したジャ・ジャンクー監督の『罪の手ざわり』(2013 年) 等がある。また 1992 年から 1999 年まで東京国際映画祭の作品選定を担当。2000 年に映画祭「東京フィルメックス」を立ち上げ、ディレクターを務めた。2019 年、川喜多賞受賞。2021 年、東京国際映画祭プログラミング・ディレクターに就任。2024 年より東京藝術大学大学院映像研究科教授。



コメント

「出資者から原作ありきの企画が求められる現在の日本映画界にあって、オリジナル脚本に基づく企画をサポートするこのプロジェクトは、日本の新進監督たちにとって貴重な存在だと思います。サポートを得る企画は一つですが、他にも非常に魅力的な企画があり、日本映画の未来は明るいと感じました。このプロジェクトから多くの素晴らしい映画が生まれることを期待しています。」

公益財団法人川喜多記念映画文化財団 常務理事 坂野ゆか氏

慶応義塾大学文学部卒業。1998 年、財団法人川喜多記念映画文化財団へ入職し、国際部門担当として、主に日本映画の海外映画祭出品を後押しすべく、各国際映画祭と日本側関係者とのコーディネーションに努める。ハワイ国際映画祭、シンガポール国際映画祭、香港国際映画祭、台北映画祭等の国際映画祭審査員、SKIP シティ国際 D シネマ映画祭等国内映画祭や公的機関の映画に関わる審査員やアドバイザーも務める。2020 年 6 月 公益財団法人川喜多記念映画文化財団常務理事就任。



コメント

「国内有数のラボであり、映像制作に関わる多岐にわたる業務を展開する IMAGICA GROUP さんが、「国際映画祭に出品及び受賞できることを目標にした映画製作企画」のプロジェクトに着手されるというお話を聞き、心躍りました。官ではなく民間の企業によるここまで本気の新進監督のためのプロジェクトは初めてなのではないかと思います。審査対象作品は、IMAGICA GROUP さんのグループ会社より募集した中から厳選されただけのことはある、予想を超えた巧みでありフレッシュな企画の数々で、1 本に絞り込むのに困難を極めた嬉しくも苦しい審査でした。栄えある第 1 回目の選出作品が国際映画祭を足掛かりに羽ばたいてゆかれること、期待でいっぱいです。」

本プロジェクトを通して、IMAGICA GROUP は映像文化の発展に貢献するとともに、新たな映像表現の可能性を追求してまいります。

株式会社ロボット



ROBOT は、エンタテインメントを通じて勇気と希望を社会に与えていくことをビジョンとして掲げ、映画、ドラマ、アニメ、TVCM から企業ブランドムービー、体験型アトラクションまで幅広いストーリー体験を企画・制作しています。劇場用映画に関しては『ゴジラ-1.0』のようなブロックバスター作品から『エゴイスト』のような単館系のものまで幅広いジャンルの作品を手掛けています。

<https://www.robot.co.jp/>

株式会社ピクス



P.I.C.S.は、2000 年に音楽専門チャンネル「MTV」のクリエイティブ部門からスピンアウトして創業。音楽ビデオ、ライブ映像、CM、映画、ドラマ、アニメなど、ジャンルを問わずさまざまな映像・グラフィックの制作を手掛けています。また、ディレクターや脚本家、アニメーション作家など、多彩なクリエイターをマネジメントしています。

さらに、商業施設や展示会でのインタラクティブコンテンツや空間演出、体験設計にも取り組み、独自の IP 開発など新しい領域にも挑戦しています。

<https://www.pics.tokyo/>

株式会社オー・エル・エム



OLM グループは、アニメ、フル CG、実写、VFX など、ジャンルにとらわれない多岐にわたる映像作品を手掛けており、国内外のみならず、海外向けの TV シリーズや映画作品の制作も手掛け、活動のフィールドを広げています。鮮烈な情熱で作り出す私たちの映像で、もっと楽しませたい。そして、多くの人びとの心を豊かにしたい。私たちは、映像を愛するすべての人へ笑顔と感動をお届けします。

<https://www.olm.co.jp/>

株式会社 IMAGICA GROUP



会社名 : 株式会社 IMAGICA GROUP (IMAGICA GROUP Inc.)

本社 : 〒105-0022 東京都港区海岸一丁目 14 番 2 号

代表者 : 代表取締役社長 社長執行役員 長瀬俊二郎

設立 : 1974 年 6 月 10 日 (創業 : 1935 年 2 月 18 日)

URL : <https://www.imagicagroup.co.jp/>

事業内容 : 映像コンテンツ事業、映像制作技術サービス事業、映像システム事業等を営むグループ会社の事業の統括。IMAGICA GROUP は、映像の企画から制作、映像編集、配信・流通向けサービスに至るまでを、グローバルにワンストップでお届けし、エンタテインメントに限らず、産業や医療、さらには学術研究などの幅広い分野へも、映像技術を活用した高品質な製品・サービスを提供しています。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 IMAGICA GROUP

「IMAGICA GROUP オリジナル映画製作プロジェクト」 film_pj@g.imagicagroup.co.jp



IMAGICA GROUP 創業 90 周年特設サイト

<https://www.imagicagroup.co.jp/90th-anniversary/>